

平成30年度 からむし織体験生「織姫・彦星」募集のご案内
募集期間 平成29年7月7日(金)～平成29年10月31日(火)

畑を耕し、
草を育み、
糸をつなぎ、
織り上げる。
農山村の暮らし、
手しごとの知恵。
変わらぬ山、
きらめく星々、
美しい水の流れ、
村人のあたたかい心、
四季折々の大自然、
あなたの笑顔を
待っています。

平成30年度 第25期
からむし織体験生「織姫・彦星」募集のご案内
～昭和村の暮らしと「からむし織」を体験してみませんか～

「からむし織」は、苧麻(チョマ・カラムシ)という植物の繊維を素材とした古代からの織物で、我が国最古の織物とも呼ばれ、かつては日本各地で織られ献上布として納められた貴重な布でした。麻をはるかに超えるといわれる品質は、吸湿性、速乾性に富んだ肌触りの良さを持ち、夏衣としては最高級の品質と評価されています。

ここ奥会津昭和村は、質の高い上布用からむしの栽培地であり、古より途切れることなく栽培技術を守り伝えてきました。栽培から織りに至るほとんどの工程を手作業で行う伝統文化は、人と自然が寄り添った山村暮らしの営みそのものと言えるものです。

四季の移り変わりを日々素肌で感じながら、からむし織を通じた昭和村の暮らしを体験してみませんか。

奥会津昭和村とは

福島県の西部に流れる只見川の支流、野尻川流域に広がる昭和村は矢ノ原湿原や駒止湿原、博士山のブナ林などの大自然に囲まれた美しい山村です。

高齢化が進んでる一方、からむし織とかすみ草を中心に、織姫さんやかすみ草の新規就農者など若者が定住しています。



体験の概要

1. 目的

からむし織の一連の工程と山村生活を通じて村人との交流を深め、山村の生活文化を知っていただくことを目的としています。

2. 内容

(1) からむし(畑から織までの一連の工程)

- ① からむし畑(5月～7月にかけて)
からむし畑の春から夏にかけての作業(雑草取り、からむし焼き、施肥、垣造り、根の植え替え など)
- ② からむし引き(7月～8月にかけて)
からむしを刈り取り、繊維部分を取り出す工程



- ③ 糸づくり(5月～12月にかけて)
繊維を細く裂き、繋ぎ、糸にする工程
(おとうみ、撚り掛け、染色)
- ④ 織り(12月～3月にかけて)
たかはた高機を用い、平織り帯1本を織りあげる工程。
3月には、織りあがった作品を多くの方に見ていただくため、作品展を開催します。

(2) 山村生活体験

次の体験学習を随時取り入れます。

- ① 畑作業体験(家庭菜園程度)
- ② 染色(草木染め)、
生活工芸体験(草履作りなど)
- ③ 郷土料理体験(笹巻き、梅漬け、
そば打ちなど)
- ④ 村内行事への参加

3. 期間

平成30年5月から平成31年3月までの 約11ヶ月間

4. 体験時間

原則として平日(月～金) 午前9時から午後5時まで

5. 体験料等

無料です。(体験に必要な材料及び道具類、各種講習受講料は村で負担又は用意します。)

6. 体験中の生活について

- ① 原則として本村に住民登録をしていただきます。
(国民健康保険、国民年金への加入が必要となった場合の保険料は、体験生の自己負担となります。)
- ② 体験中の宿泊は、原則合宿所(村の施設)での共同生活となります。
(キッチン、談話室、バス・トイレ共用、各人に個室あり。)
- ③ 食費、光熱水費、燃料費などの生活費は体験生の自己負担となります。
- ④ 体験期間中は、村内外の各種行事に積極的に参加していただきます。
- ⑤ 体験期間中のケガ等については、村加入の傷害保険が適用となります。

7. からむし織研修生制度について

体験修了後、さらに深くからむし織について学ぶ制度があります。最長3年間(手当あり)。



募集について

1. 募集対象者

からむし織と山村生活に関心があり、心身ともに健康で、体験期間中、村の各種行事に積極的に参加することができる平成30年4月1日現在の年齢が満18歳以上の方。性別、織り経験の有無は問いません。

村のライフスタイルを
素直に吸収できる方

多少の不便さなら
自分の手でなんとか
してやるうという
意欲のある方

2. 募集人数

6名

3. 応募方法

次の二点を郵送・持参又は電子メールにて送付してください。

- ① 写真を貼った履歴書(A4版) 連絡がとれる電話番号を必ず記載して下さい。
(市販品【※健康状態を必ず記載してください】、またはウェブサイトに掲載の指定様式)
- ② 800字程度の応募動機(A4版)
(400字詰め原稿用紙2枚、またはウェブサイトに掲載の指定様式)

布・繊維に
興味のある方

<宛て先>

〒968-0103
福島県大沼郡昭和村大字下中津川字中島652
昭和村役場 からむし振興室
TEL:0241-57-2116 FAX:0241-57-3044
Email: karamushi@vill.showa.fukushima.jp

4. 募集期間

2017年7月7日(金)から2017年10月31日(火)

郵送の場合は当日消印有効

5. 応募後の流れ

- 書類選考** 結果は11月中旬を目安に郵送します。
- ↓
- 面接** 11月25～26日(土～日) 事業説明を兼ねて二日間行います。
- ↓
- 内定** 面接から10日程度を目安に合否の結果を郵送します。
- ↓
- 入村** 平成30年5月1日(火)～6日(日)の間に入村(引っ越し)となります。
- ↓
- 体験開始** 平成30年5月7日(月)から体験開始となります。

修了後について

体験生終了後も、また一年からむしに挑戦したい、もっとからむしのことを知りたい、村で暮らすじいちゃんばあちゃんの知恵を学びたいなど、引き続き村の生活を希望される方が多くいらっしゃいます。

村では、からむしをテーマとした調査研究、技術習得などを希望する方に、最長で3年間、「からむし織研修生」として引き続き村の暮らしを続けていただく制度を設けています。

現在、約30名の体験生OGが昭和村に定住し、各方面で活躍されています。

修了生の声



ふなき ようこ 舟木容子さん(1期修了生)

体験生の時は村のお宅にホームステイでした(注・一期生のみ)。生活の中にある「からむし」を日々体験し、なぜ昭和村で大切に守られてきたのかを村の方々から直接教えてもらいました。少しでも力になりたい、そんな気持ちで村に残り20数年。今は道の駅「からむし織の里しょうわ」の駅長としてからむしに関わらせていただいています。しかし仕事とからむし作業は両立が厳しく、おばあちゃんになればゆっくりからむしに向き合えるのかな?と考える日々です。

さいとうたまき

齋藤環さん(11期修了生)

体験生時代の思い出は、村のばあちゃん達に教えていただきながら畑で野菜を作ったり、保存食を作ったり、一緒にご飯を食べたこと。ばあちゃんお手製の”くきな煮”が美味しすぎて思わず泣けてしまったこと。あのときの味は今でも忘れられません。畑で育てたからむしが、からむし引きや糸績みや、たくさんの工程を経て一本の糸が布になっていく。布になった時のほっとするような、安心感のような、どきどきのような、そんな感覚が好きです。からむしに手で触れていると、静かな時間の流れているところにきたような感覚になって、すーっと心が落ち着いてしまいます。

昭和村は現代では知ること、見ること、感じる事ができないものがたくさん詰まった場所です。昔の暮らしの知恵がまだまだいっぱい残っていて、本当にたくさんのことを村の人々から、自然の中から学ぶことができます。(現在は喰丸食堂を運営しながら、作品制作など)



かとう もえ

加藤萌絵さん(23期修了生)

土を踏みしめ、耕し、育て、収穫する喜び。朝靄に包まれた空気の心地よさ。ひっそりと吸い込まれそうな冬の後、初めて鳥の声が聞こえた日の感動。

からだ全体で自然を感じ、からだ全体を動かし、ものをつくり出すという経験は何にも代え難いことでした。

一番の魅力、からむしの繊維は肌にすっとなじみ、日々の糸績みは瞑想のような静けさをもたらしてくれます。

戸惑いや苦労も多いけれども、それでもここにいたい、と感じています。(現在はからむし織研修生)

年	月	免許・資格

健康状態・持病の有無

※ 良好・普通・良好でないが体験に支障ない・病弱
 (良好・普通以外の場合その理由)

※ 持病の有無 有・無 (有りの場合病名：)

扶養家族数 (配偶者を除く)	配偶者	配偶者の扶養義務
人	※ 有・無	※ 有・無

趣味・特技など

本人希望記入欄 (連絡方法など希望があれば記入)

保護者 (本人が未成年の場合のみ記入)		(連絡先電話番号)
ふりがな		
氏名	住所 〒	

記入上の注意

- 鉛筆以外の黒または青の筆記用具で記入すること。
- 数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。
- ※印のところは、該当するものを○で囲む

氏名： _____
